

# 活力ある町づくりを目指して 新たな決意と実行を

町民の皆様、あけましておめでとうございませう。皆様には希望に満ちた新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げますとともに、日ごろからの町の行政運営全般に対する温かいご理解と絶大なご協力に厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は、世界に向けて日本の素晴らしさについて再認識していただいた年と言えます。6月には、富士山および関連する文化財群が「富士山・信仰の対象と芸術の源泉」の名で世界文化遺産に登録され、9月には2020年の夏季オリンピック・パラリンピックの開催都市として東京が選出されました。また、12月には国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）で「和食・日本人の伝統的な食文化」が無形文化財に登録されるなど、世界の注目が日本に向けられています。

平成24年12月に成立した第2次安倍内閣では、経済政策「アベノミクス」でデフレ脱却を達成するための大胆な取り組みを掲げ、景気動向はわずかに光が差し始めました。しかし、「円高デフレ経済からの脱却に向けた景気対策」や「原発をはじめとしたエネルギー問題」、「アジア近隣諸国との領土問題や外交、安全保障の問題」、さらには「今後の農業の行方が懸念されているTPP参加の問題」

など、数多くの政策課題が山積しており、それらの問題の解決に向けた諸施策に大きな期待が寄せられています。

また、地方においても、少子高齢化に伴う人口減少や各種産業後継者不足の問題、それらに伴う耕作放棄地の問題、さらに国民皆保険の代表的な保険制度「国民健康保険」は、その制度上の問題もあつて、保険者である全国の市町村の財政運営が危機的状況となっており、本町も例外ではありません。

本町の明るい話題としましては、昨年甲佐中学校がロボットコンテスト大会において、初出場で県代表に選ばれるとともに九州大会で優勝し、最優秀賞も獲得して1月開催の全国大会に出場します。また、町内プロスポーツ選手の活躍もめざましく、プロ野球・横浜ベイスターズの高崎健太郎選手（八丁区）、Jリーグ・セレッソ大阪の藤本康太選手（下田口区）に続き、藤本選手の弟の藤本大選手が地元アソソ熊本に入団するなど、今季のさらなる活躍に期待がかかる場所です。

そういった中、今年も町政運営2期目の集大成を迎えるにあたり、町民の皆様が、この「甲佐町」に誇りと愛着を持ち「この町に住んでよかった」と心から



甲佐町長 奥名 克美

言っていただけのように、行財政改革を強く推し進めて財政基盤をさらに強化しつつ、なお一層、本町の個性を活かしたまちづくりに努めます。平成26年においても「最小の経費で最大の効果」を合言葉とし、職員一体となって行政に課されたその役割を再認識しながら、「甲佐町第6次総合計画」を基盤に据えて引き続き行政サービスの充実を図ってまいります。

そして、それらの改革や取り組みによって、①活力に溢れるまちづくり、②安心・安全なまちづくり、③健康と人を育むまちづくり、④協働で支えるまちづくりの4つの柱を基本とした33項目の政策目標の達成に向けて、今年も精一杯取り組んでまいります。

中でも、「定住促進」を進めるための「子育て支援」のさらなる拡充や、東日本大震災に学んだ「災害に強いまちづくり」の推進について取り組んでまいります。また、「清流緑川」を抱える本町としては、環境保全の立場から生活排水の浄化にも力を入れなければなりません。

自治体の地域間競争が激化する中で、まだまだ課題は山積しておりますが、新しい年を迎えるにあたり、これからも初心を忘れることなく引き締めて、町民の皆様から寄せられた大きな期待に応えるためにも町職員と一丸となり、今後も強い信念とあふれる情熱で「甲佐町再生・セカンドステージ」を継続してまいります。

終わりに、町民の皆様、また議会の皆様には、本年も変わらぬご指導とご支援の程をよろしくお願いを申し上げますとともに、町民の皆様にとりまして輝かしい良き1年となることを祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

町民の皆様、新年明けましておめでと  
うございます。

平成26年の年頭にあたり、甲佐町議会  
を代表し、謹んで新春のご挨拶を申し上  
げます。

皆様方には、新たな期待と希望をもつ  
て、輝かしい新春をお迎えのこととお慶  
び申し上げます。

旧年中は、議会に對しまして温かいご  
支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年、東京オリンピックの招致が決ま  
り、明るい出来事がありました。近隣  
の中国・韓国との緊張も高まっています。

国内においては、参議院議員選挙の結  
果、衆・参のねじれが解消し、特定秘密  
保護法が成立しました。

消費税増税に対する生活必需品に対す  
る軽減、自動車取得税の廃止に伴う軽自  
動車税などいろいろ検討され、特にTP

# 新年のご挨拶

甲佐町議会議長

本田 新



P交渉の影響を受け、農業政策が大きく  
変わろうとしています。

本町の基幹産業である農業では、減反  
政策の廃止に伴う補助金などの問題は個  
人農業者への影響が大きいです。

農業生産基盤の整備や緑川を活かした  
環境整備、定住促進・子育て支援の政策  
商店街の活性化に向けた支援など町の取  
り組みに期待をするところです。

議会としましては、執行部とともに  
「活力溢れる町づくり」に向け、全力で  
取り組めます。

そして、町民の皆様の代表であること  
を強く自覚し、日々研鑽に務め、開かれ  
た議会づくりを目指していきたいと思っ  
ています。

今後とも、ご指導とご支援をよろしく  
お願いいたします。

町民の皆様にとりまして、実り多き年  
でありますことをご祈念申し上げ、年頭  
のご挨拶といたします。

# 夢の実現に向けて 努力する教育を

甲佐町教育長

赤星 眞照

位置づけ、発達や学びの連続性を踏まえ  
た連携カリキュラムに基づき、計画的な  
連携・交流を行い、家庭や地域と連携を  
進めています。

現在、小中学校共に新しい学習指導要  
領が完全実施され、授業時間が増加し、  
学習内容も充実してきています。今後と  
も子ども達の「生きる力」を育む教育が  
充実するよう小中一貫教育を核にして学  
校現場を支援してまいります。

さて、現在甲佐中学校の体育館そして  
プール・外回りの工事が進められていま  
す。今しばらく子どもたちには不便をか  
けることも多いかと思いますが、学校教  
育活動に支障がないように学校と教育委  
員会が一体となって子どもたちの確かな  
学びを進めていきたいと考えています。

今後とも、心豊かに健やかに子どもた  
ちが成長するよう町部局と一体となつて  
甲佐の教育を推進して参ります。

新年明けましておめでとうございます。  
学校教育をはじめ社会教育において、  
地域の方々のご理解、ご協力、ご支援を  
いただいておりますことに、心から厚く  
お礼申し上げます。21世紀を担う甲佐っ  
子が、「花と緑と鮎の町」と表現される  
甲佐の恵まれた自然環境、そして豊かな  
人材を生かし、心身ともに健やかな子ど  
もに育つよう甲佐の教育を進めていると  
ころです。

本町では、「豊かな心」の育成、「確か  
な学力」の育成、そして「健やかな体」  
の育成を目指して、小学校、中学校が連  
携した小中一貫教育を本町の教育活動に

